みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

国立民族学博物館研究報告別冊 no.009; 文献

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-05-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009789

5. 文　　献

引用・参考文献

ADHIKARI, M. S. *et al.*

1975 *Socio-Economic Survey of Rupa: A Sherdukpen Village in Arunachal Pradesh.* Office of the Registrar General, India Ministry of Home Affairs, New Delhi.
本書は,『センサス・オブ・インディア』1971年のシリーズとして出版されたもので,1963年に N.E.F.A. 地域で行なわれたインテンシブな調査の報告書である。カメン・ディストリクトにあるボンディラの西19キロメートルに位置するルパ村のシェルドゥクペン族についての報告書である。

ALEMCHIBA, M.

1970 *A Historical Account of Nagaland.* Kohima.
ナガランドのナガ諸族の歴史に関してナガ族出身である著者がまとめたもの。

ALLEN, B. C.

1905 *Assam District Gazetteers.* Vol. 8, Lakhimpur. Calcutta: Calcutta City Press.

ANAND, V. K.

1980 *Conflict in Nagaland: A Study of Insurgency and Counter-Insurgency.* Delhi: Chanakya Publications.

綾部恒雄

1971 『タイ族　その社会と文化』弘文堂。

1972 「シャン族」『平凡社大百科事典』第14巻　平凡社, pp. 192。

綾部恒雄・永積昭編

1983 『もっと知りたいビルマ』(もっと知りたい東南アジア6)　弘文堂。
専門家によるビルマ解説書。この中にアッサムと関係する諸族の中で,タイ諸族(シャン),ナガ諸族,クキ・チン諸族に関する記述がみられる。

BACON, E. E.

1979 NAGA. *The Encyclopedia Americana* 19: 709.

BAHADUR, K. P.

1977 *Caste, Tribes and Culture of India.* Delhi: ESS ESS Publications.

BARUA, Indira

1978 *Social Relations in an Ahom Village.* New Delhi: Sterling Publishers.
人類学者による現在のアホム族村落の調査研究。社会階層と歴史的背景をひきながら現在の村落内の問題点を指摘している。

BARUAH, S. L.

1985 *A Comprehensive History of Assam.* New Delhi: Munshiram Manoharlal Publishers.
著者は,「アホム王朝の最後の日」と言うテーマで博士号の単位を取得し,現在は,ディブルガル大学の歴史学部の学部長代理をつとめている。本書の他にも,古代インドやアッサムの歴史に関する著書を数冊書いている。本書は,アッサム地方における歴史を古代から現代にあたるまでまんべんなくおさめた大部の本である。ことに,近代以降の政治,経済,社会組織などが,行政側の資料を使ってかなり詳しく記述されている。

BASU, N. K.

1970 *Assam in the Ahom Age: 1228–1826.* Calcutta: Sanskrit Pustak Bhandar.
歴史学者によるアホム王国史。政治の他,経済,社会,技術,芸術に関する記述がある。

BHUYAN, S. K.

1933 *A History of Assam: 1681–1826 A.D..* Oxford University Press. (Reprinted 1983)
本書は,アホム族の年代記であるブランジ文献の一つ *Tungkhungia Buranii* の英訳である。Tungkhungia は,1681年から1826年の145年間アッサムを支配していた王朝である。著者は,ガウハティ大学コットンカレッジの教授である。

BISWAS, J.

1966 *Jara: A Dafla Village in N.E.F.A., Census of India 1961. Vol. 1, Village Survey*

Monograph Series Part 6. Office of the Registrar General, India Ministry of Home Affairs.
本書は，1966年，N.E.F.A. のヴィレッジ・サーベイの一環として，刊行されたものである。本書は，スバンシリ・ディストリクトのジロの南西16キロメートルに位置するジャラ村に居住するシェルドゥクペン族の調査に基づいたものである。

BOSE, J. K.
1937 Marriage: Classes among the Chirus of Assam. *Man,* Vol. 37, No. 189.

BOWER, U. G.
1953 *The Hidden Land.* Allied Publishers Private Limited.

BROWN, R.
1837 Specimen of Indo-Chinese Languages. *J.S.A.B.,* Vol. 6.
1874a *Annual Report on the Munnipore Political Agency for 1868–1869.* Selections from the Records of the Government of India, Foreign Department, No. 28.
1874b *Report on the Exploration of the Angami Naga Country Made in Connection with the Survey of the Naga Hills & Manipur Boundary.* Shillong.

BUTLER, J.
1855 *Travels and Adventures in the Province of Assam.* (Reprinted 1978 by Vivek Publishing Company, Delhi.)

CANTLIE, A.
1984 *The Assamese: Religion, Caste and Sect in an Indian Village.* London Studies on South Asia No. 3, London: Curzon Press.
著者は，ロンドン大学で博士の学位を取得した社会人類学者であり，その学位論文としてまとめられたものが，本書の基幹をなしている。本書は，アッサム地域に居住するいわゆる「アッサム人」と総称される民族の社会構造について分析した研究書である。本書は，2つの章からなり，第1章の「村落」は，民族誌的記述もまじえて，親族組織・結婚形態について社会人類学的分析を行なっている。第2章の「カーストとセクト」では，「アッサム人」の社会に見られるカースト制度やヒンドゥー的な宗教思想のアッサム的な形態について論述している。

CAREY, B. S. and H. N. TUCK
1896 *The Chin Hills: A History of the People, British Dealings with them, their Customs and Manners, and a Gazetteer of their Country.* Firma Klm Private LTD, Mizoram. (Reprinted 1983 by Cultural Publishing House, Delhi)

CHAKRAVORTY, B. C.
1964 *British Relations with the Hill Tribes of Assam.* Calcutta: Firma K. L. Mukhopadhyay.

CHIB, S. S.
1984a *North-Eastern India.* Delhi: ESS ESS Publications.
アッサム地方の諸部族とその文化についての概述に加え，自然，経済にもふれている。
1984b *Caste, Tribes and Culture of India Vol. 8 North Eastern India.* Ess Ess Publications, Delhi.
本書は，タイトルにあるように，シリーズ本の一冊である。インド北東部の各地域の歴史，民族，経済，文化などが概説されている。

CHOWDHURY, J. N.
1970 *The Hill Miris of Subansiri.* Shillong: North-East Agency Administration.
本書は，ヒル・ミリとプレイン・ミリの関係を明らかにするとともに，ミリ族の生活全般について写真と画をまじえながら，紹介している。
1983 *Arunachal Pradesh: From Frontier Tracts to Union Territory.* New Delhi: Cosmo Publications.
アルナチャル・プラデシュの自然，民族移動，現代史についてまとめられている。

CONSTANTINE, R.
1981 *Manipur: Maid of the Mountains.* New Delhi: Langer Publishers.
著者は，1920年に生まれ，1951年以来，全インドラジオ放送のニュースサービス部局につとめ，1964年からマニプール河谷に住むメイテイ族に焦点をあて，自分で調査した資料も生かしながら，歴史，政治，文化について広く紹介している。

COOPER, T. T.

1873 *The Mishmee Hills: An Account of a Journey made in an Attempt to Penetrate Tibet from Assam to Open New Routes for Commerce.* London. (復刻版 台北 成文出版 1971)
著者が試みたチベット入りは果たせなかったが，ミシュミ族，カムティ族などの民族についての観察，記録は貴重。当時のこの地方の雰囲気をよく伝えている。著者は，ブラマプトラ川をたどり，上アッサムからビルマ，中国に到るルートを19世紀にたどっている。

DALTON, E. T.

1872 *Descriptive Ethnology of Bengal.* Calcutta.
19世紀におけるベンガル及びアッサム地方の諸族に関する最も優れた文献の一つ。著者自身が接した諸部族との体験談も含む。

DAS, B. M.

1987 *The People of Assam.* New Delhi: Gian Publishing House.

DAS, R. Kanti.

1985 *Manipur Tribal Scene: Studies in Society and Change.* Inter-India Publications.
著者は，インパールにある D. M. College of Science の人類学部につとめている。本書は，マニプール地域に住む（メイテイ，タドー，カブイ，ナガなどの）諸民族について，民族のアイデンティティや社会変化という今日的な問題に焦点をあてて社会分析を行なった論文集である。本書は10編の論文を集め，インドにおける少数民族に関する現在の研究水準を示すものとなっている。

DAS, S. T.

1978 *The Peoples of the Eastern Himalayas.* New Delhi: Sagar Publications.

1986 *Tribal Life of North Eastern India.* New Delhi: Gian Publishing House.
著者は，ベナレス・ヒンドゥー大学で教育を受け，以後，インドにおいて豊富なフィールド・ワークを行なう。現代インドにおける著名な人類学者。本書は，これまでの諸研究に著者自身のフィールド・ワークを加味している。前半は，諸民族の概要。後半は，ゼミ・ナガ，ミキール，ディマサ・カチャリ，マニプール諸族の4つの諸族について，民族誌の構成。

DAS, Tarakachandra

1945 *The Purums: An Old Kuki Tribe of Manipur.* University of Calcutta.
著者は，本書が出版された当時は，カルカッタ大学の人類学部の講師であった。本書は，出版はかなり以前になるが，プルム族について，現在までに書かれた最もまとまった民族誌である。プルム族の経済生活，社会組織，政治組織，宗教，祭り，通過儀礼，音楽や踊り，さらに時間の観念などまで多岐にわたって，細かな記述がみられる。図表，写真も豊富である。

DEV, B. J. and D. K. LAHIRI

1983 *Lushai Customs and Ceremonies.* Delhi: Mittal Publications.
著者たちは，それぞれガウハティ大学とベナレス・ヒンドゥー大学で学位を取得し，数多くのフィールド・ワークを行なっている。また，「カーシの政治文化」に関する調査プロジェクトに従事している。本書は，民族誌全般にわたるものと言うより，社会組織に重点をあてている。とくに，婚姻の形態，離婚，相続などに詳しい。

DHASMANA, M. M.

1979 *The Ramos of Arunachal: A Socio-Cultural Study.* New Delhi: Concept Publishing Company.

DUBEY, S. M.

1978 *North East India: A Sociological Study.* Delhi: Concept Publishing.
ミキール族などに関する記事がある。

DUNBAR, G. D. S.

1915 *Abors and Gallongs.* Memoir of Asiatic Society of Bengal, Calcutta. Vol. 5, Baptist Mission Press.
本書は，4年間のフィールド・ワークに基づく，ガロン族とミニョン族の報告書である。ガロン族とミニョン族に関しては，かなり初期の文献である。

DUTTA, Debabrata

1982 *History of Assam.* Sribhumi Publishing Company, Calcutta.
本書は，著者が前書きにも書いているように，古代の歴史についてはK. L. Baruaの*Early History of Kamarupa*を，アホム王国についてはE. A. Gaitの*A History of Assam*を下敷きにして書かれた本である。資料や文献的価値よりも，アッサムの歴史に関するコンパクトな入門書として用いるのに便利である。

DUTTA, Parul

1969 *The Tangsas of the Namchik and Tirap Valleys.* Shillong: North-East Frontier Agency.
著者は現在アルナチャル州の民族研究機関の長の職にある。本書は著者の実地調査に基づいたタンサ族に関する民族誌。

1978 *The Noctes.* Shillong Research Department Directorate of Inf. & Publication, Relations, Goverment of A.P.

1983 *The Wanchos.* Shillong, Research Dept., Govt. of A.P.

1987 Social Organization of the Wanchos of Tirap District of Arunachal Pradesh. In Manis Kumar Raha (ed.), *The Himalayan Heritage,* Delhi: Gian Publishing House.

ELWIN, V.

1957 *Myths of North Eastern Frontier of India.* (Reprinted 1968 by Dir. of Inf. & Pub. Rels, Govt. of N.E.F.A., Shillong.)

1959a *India's North Eastern Frontier in the Nineteenth Century.* Bombay.
初期にアッサム地方の諸部族に接した多くのイギリス人の報告を集めたもの。

1959b *The Art of the North-East Frontier of India.* Shillong: North-East Frontier Agency.

1961 *Nagaland.* Research Department, Shillong: Adviser's Secretariat.

1969 *Nagas in the Nineteenth Century.* London: Oxford University Press.
初期にナガ諸族に接した多くのイギリス人の報告を含む。これらには現在日本で入手しがたい雑誌の報告が多い。文献リストあり。

EMBREE, J. H.

1950 *Ethnic Groups of Northern Southeast Asia.* New Haven: Yale University Southeast Studies. (Reprinted 1978 by University Microfilms International Ann Arbor, Michigan, U.S.A., London, England)
本書はエール大学の東南アジア研究の一環として，東南アジア半島に居住する主要な民族を分類して体系化してとらえようという試みで編集されたものである。全体は，北ビルマ，北タイ，北インドシナ，南シナの4つに分かれ，各民族ごとに，居住地，人口，村落形態，経済，言語，宗教，他の民族との接触，などの項目について簡潔に民族誌がまとめられている。この地域に特有なさまざまな自称，他称が混在する民族の名前をリストアップして整理しているのが本書の特徴となっている。

ENDLE, Rev. Sidney

1911 *The Kacharis.* Delhi: Cosmo Publications. (Reprinted 1975)
著者は，1864年に牧師としてアッサムに入り，1907年この地で没するまでの40余年をキリスト教の伝導と，住民の生活向上と教育に一生を捧げた。本書は著者の豊富な経験と知識からカチャリ族を体系的にまとめたもの。以後のカチャリ族研究の出発点にあたる基本的文献である。

FÜRER-HAIMENDORF, C. von

1938 Through the Unexplored Mountains of the Assam-Burma Border. *The Geographical Journal,* Vol. 91, No. 3, pp. 201–219.

1962 *The Apa Tanis and their Neighbours.* London: Routledge and Kegan Paul.

1969 *Konyak Nagas.* New York: Rinehart and Willson.
現地調査に基づいて，ナガ諸族の当時の状況を踏査行程にしたがって記録している。

1976 *Return to the Naked Nagas: An Anthropologit's View of Nagaland 1936–1970.* Delhi: Vikas Publishing House.
前著*Konyak Nagas*に加筆したもの。著者の70年代の再訪の記録を加え，ワンチョー族についての記述も新たに含まれている。

1982a *Highlanders of Arunachal Pradesh: Anthropological Research in North-East India.* Vikas Publishing House PVT Ltd.
本書はニシ族，ヒル・ミリ族を含むアルナチャル・プラデシュの部族を広く扱ったものである。著者は，オーストリアに生まれ，ウィーン大学，ロンドン大学で人類学を修めた。1936年以来インドでフィールド・ワークに従事。1945年以降は後進部族問題の顧問を勤めた。ハイメンドルフは東北インド諸民族に関する世界的な人類学者である。

1982b *Tribes of India.* Oxford University Press.

GAIT, E. A.

1905 *A History of Assam.* Calcutta. (Reprinted 1967 by Thacker Spink & Co. P. Ltd. Calcutta.)
ブランジ文献によって記述したアッサム通史。著者は，イギリス人である。ゲイトの研究は，ゲイト以降の研究に対して多かれ少なかれ影響を及ぼしているといい得るであろう。

ゲイト E. A.

1944 『アッサム史』民族学協会調査部訳　三省堂。

GAN-CHAUDHURI, J. (ed.)

1980 *Tripura: The Land and Its People.* Leeladevi Publications.
トリプラに関する論文集。歴史，地理，文化のほか，土地利用，電力，行政など現代的問題についての論文も所収されている。

GANDA, Dipali G.

1978 *Among the Dimasa of Assam: An Ethnographic Study.* Sterling Publishers PVT. Ltd.
著者はアッサムに生まれ育ち，ガウハティ，カルカッタ大学で学んだのち，Anthropological Survey of India で多くのフィールド調査に従事。本書は1964～65年1966年の北カチャール山地，ミキール山地での二度にわたる計6つの集落でのフィールド・ワークを通した民族誌。ディマサ族の歴史，生活，社会構造，経済，宗教についてかなり詳しく述べられている。

GANGULY, J. B.

1968 *Economic Problems of the Jhumias of Tripura.* Bookland Private Ltd.
伝統的生産形態である焼畑耕作の変容過程を通じて，トリプラの経済構造の特質を記述。

玄　奘

1971 (642) 『大唐西域記』(中国古典文学体系22)　水谷真成訳　平凡社。

GHOSH, B. B.

1982 *History of Nagaland.* New Delhi: S. Chand & Company Ltd.

GODWIN-AUSTEN

1872 On the Stone Monuments of the Khasi Hill Tribes, and on some of the Peculiar Rites and Customs of the People. *Journal of the Anthropological Institute of Great Britain and Ireland,* 1: 122–143.

GOGOI, Lila

1986 *The Buranjis: Historical Literature of Assam.* New Delhi: Omsons Publications.
アホム王朝の歴史記録である莫大な量のブランジについて詳しく分析している。

GORI, G. K.

1984 *Changing Phase of Tribal Area of Manipur.* New Delhi: B.R. Publishing Corporation.

GRAHAM, U.

1952 *Naga Path.* London: John Murray.

GRIERSON, G. A.

1903 *Report of the Linguistic Survey of India, Vol. 3, Part 2,* Calcutta.

1927 *Report of the Linguistic Survey of India. Vol. 1, Part 1, Introductory.* Motilal Banarsidass.
本書は，1901年に実施されたインドの国勢調査の資料や古今の言語に関する文献をもとにして，数千におよぶインドの言語を体系づけたものである。アッサムについて関

心を持つものにとっては，これがもととした調査域にビルマが含まれなかったことが惜しまれる。

ハーヴィ，G. E.

1943 『ビルマ史』五十嵐智昭訳　北海出版社。

イギリス人学者によるビルマ通史。当時の文献資料に基づいた研究成果の集大成である。アッサムと関わりのある上ビルマのシャン族についての記述がある。

HODSON, T. C.

1908 *The Meitheis.* London: David Nutt.

本書は，メイテイ族に関する民族誌の古典である。人種的特徴から起源，村落構造，生業，食習慣，政治組織，社会組織，宗教，伝説，言語など多岐にわたって詳細に記述している。M. M. McCulloh や K. Brown の著書から盛んに引用しながら，その後，50年間に起こった変化について記している。

1911 *The Naga Tribes of Manipur.* London: Macmillan and Co. Ltd.

マニプール盆地周辺の山地に住むナガ諸族に関して最も詳しく記録された民族誌。

HORAM, H.

1977 *Social and Cultural Life of Nagas (The Tangkhul Nagas).* Delhi: B. R. Publishing Corporation.

HUNTER, W. W.

1879 *A Statistical Account of Assam.* London: Trubner & Co. (Reprinted 1975 by B. R. Publishing Corporation.)

著者はインド政府統計局長。地方役人の調査資料をもとに著者もアッサム各地を歩き，資料収集を行なった。地域的にはブラマプトラ川中流域を中心としたアッサム地方の地勢，民族，生業について詳しい。19世紀におけるアッサム地方の地誌的記述として最も優れた文献の一つ。著者は同様のシリーズをベンガルについても書いている。

HUTTON, J. H.

1921a *The Angami Nagas.* London: Macmillan and Co. Ltd.

1921b *The Sema Nagas.* London: Oxford University Press.

Imperial Gazetteer of India

1908 Assam. In *The Imperial Gazetteer of India.* New Edition, Vol. 6, Oxford.

Intelligence Branch, Division of the Chief of the Staff, Army Head-Quarters India.

1907 *North and North-Eastern Frontier Tribes of India.* (Reprinted 1983 by Cultural Publishing House, Delhi.)

石井米雄，桜井由躬雄

1985 『東南アジア世界の形成』(ヴィジュアル版世界の歴史12)　講談社。

東南アジア世界の全体についての通史。アッサムにアホム族が侵入した13世紀は，「タイ族の沸騰」した時期であり，アホム族の移住もその一つとしてとらえられている。

KABUI, G.

1985 *Anal: A Trans-Border Tribe of Manipur.* Delhi: Mittal Publications.

著者は，インパールおよびガウハティ大学で歴史学を学び，修士の学位を取得し，ジャワハルラル・ネルー大学などで教鞭をとる。1981年にマニプール大学において歴史学科の主任となる。本書は，1985年に出版された最も新しいアナル族に関する情報であり，生活や産業，社会全般についてコンパクトにまとめてある。ケース・スタディが付録としてついている。著者が歴史学の専門家であるため，アナル族の歴史や由来について詳しく書かれており，それと関連して，アナル族がクキ・グループとナガ・グループのあいだにおかれてゆれる彼らのアイデンティティの問題を取りあげている。

加藤千代

1987a「メンパ（門巴）」『文化人類学辞典』石川栄吉，梅棹忠夫他（編）　弘文堂，pp. 773.

1987b「ロッパ（珞巴）」『文化人類学辞典』石川栄吉，梅棹忠夫他（編）　弘文堂，pp. 843.

KAUFFMANN, Hans-Eberhard

1939 Kurze Ethnographie der Nordlichen Sangtam-Naga, Assam. *Anthropos,* 34: 207–245.

国家民族事務委員会五種叢書編輯委員会
1981 『中国少数民族』北京：人民出版社。
コクレン，W. W.
1944 「北シャン族の史的概観」ミルン『シャン民俗誌』生活社，pp. 14–49。
KONDINYA, B.
1987 Role of Buddhism in the Khamti Society. In M. K. Raha (ed.), *The Himalayan Heritage,* Delhi: Gian Publishing House, pp. 27–44.
栗田靖之
1987 「チベットの自然と人」『チベットの言語と文化』冬樹社，pp. 10–43.
LEACH, E. R.
1954 *Political Systems of Highland Burma: A Study of Kachin Social Structure.* Cambridge: Harvard University Press.
著者はイギリスの人類学者である。北ビルマを広く踏査して，それまでの文献を網羅した上で，北ビルマの山地民であるカチン族の政治体系をグムラ型とグムサ型社会に対比させ，相互の動態を分析している。
リーチ，E. R.
1987 『高地ビルマの政治体系』関本照夫訳　弘文堂。
LEBAR, F. M., G. C. HICKEY and J. K. MUSGRAVE (ed.)
1964 *Ethnic Groups of Mainland Southeast Asia.* Human Relations Area Files Press, New Haven.
1950年に刊行された Embree, J. の編集による *Ethnic groups of Northern Southeast Asia* の後をうけて，地域を東南アジア全域に広げ，新しいフィールド・ワークの成果を取り入れてつくられた。全体はシナ・チベット，オーストロ・アジアティック，タイ・カダイ，マラヤ・ポリネシアと語族ごとに章に分かれ，それぞれの部族ごとに，居住地，居住形態，経済，親族組織，婚姻と家族，社会組織，政治組織，宗教などの各項目にわたって，簡潔に民族誌が要約されている。付録に東南アジアの詳細な言語分布地図がついている。
LEGACE, R. O.
1977 *Sixty Culture: A Guide to the H.R.A.F. Probability Sample Files Part A.*
LEHMAN, F. K.
1963 *The Structure of Chin Society.* The University of Illinois Press.
本書は，文化変容に関するイリノイ大学の研究プログラムの一環として，その計画の推進者であった Lehman 博士によって書かれたチン族に関する研究書である。チン族は，インド側とビルマ側の両地域に居住しているが，本書は，ビルマ側のチン族について書かれている。本書は，概説的な民族誌にとどまらず，社会構造・経済組織に特に重点をおいて，理論的な枠組みを示すものとなっている。
レヴィストロース，C.
1975 『親族の基本構造(下)』馬淵東一・田島節夫監訳　番町書房。
MACKENZIE, A.
1884 *History of the Relation of the Government with the Hill Tribes of North Eastern Frontier of Bengal.* (Reprinted 1979 entitled *The North-East Frontier of India,* by Mittal Publications, Delhi.)
東インド会社とアッサム周辺の山地部族との交渉史。戦役について詳しい。
マードック，G. P. ほか
1988 『文化項目分類』国立民族学博物館翻訳　国立民族学博物館。
MAJUMDAR, D. N.
1978 *Culture Change in Two Garo Villages.* Anthropological Survey of India.
筆者はガウハティ大学人類学教授。1953年より始められたガロ山地での長年のフィールド・ワークに基づくガロ族の文化変容の研究。
MAJUMDAR, D. N. and T. C. SHARMA
1979 *Eastern Himalayas: A Study on Anthropology and Tribalism.* Cosmo Publications.

本書はインド人類学の開拓者，M. C. Goswami に捧げられた14名の執筆者によりなる論文集。

MAJUMDAR, S. N.
1925 *The Ao Nagas.* Calcutta: U. Ray & Sons Printer.

MARRISON, G. E.
1967 *The Classification of the Naga Languages of the North East India.* Ph. D. dissertation, London.

MATHEW, T.
1980 *Tribal Economy of the North-Eastern Region.* Gauhati: Spectrum Publications.

MATHUR, P. R. G.
1979 *The Khasi of Meghalaya (Study in Tribalism and Religion).* Cosmo Publications.
1968，1969年に行なわれたフィールド・ワークの成果。伝統的な宗教と社会組織の分析と，現代化が及ぼす影響，特に母系社会の変容についての記述。

MATISOFF, J. A.
1980 *The Languages and Dialects of Tibet-Burman: an alphabetic/genetic listing, with some prefatory remarks on ethnonymic and glossonymic complications.* Berkeley: University of California.
本書は，チベット・ビルマ語族に分類される諸言語を，アルファベット順にならべ，どの言語グループに属するかをすぐひけるようになっており，研究者ごとの見解も載せてある。著者は，カリフォルニア大学の言語学者である。

マックスウェル，N.
1972『中印国境紛争—その背景と今後—』前田寿夫訳　時事通信社。

MCCULLOH, M. M.
1857 *Account of the Valley of Munnipore and the Hill Tribes.* Selections from the records of the Government of India, Foreign Department, No. 28. (Reprinted 1980 by Gian Publications).
本書は，2つの部分に分かれ，前半は，マニプール河谷に住む民族について記述され，後半は，マニプール語と他の言語との比較を行なっている。巻末の付録で，18の諸部族の語彙の比較がのっている。著者は，1840年から1867年までの長期にわたって，マニプールで行政官をつとめ，王の一族の娘であるマニプール人と結婚した。

MEERWARTH, A. M.
1919 *The Andamanese, Nicobarese and Hill Tribes of Assam.* Ethnological Gallery Guide Book No. 2. Indian Museum, Calcutta.
アッサムの諸部族についての概説。武器などの道具類の写真がある。

MENON, K. D.
1975 *Tripura District Gazetteers.* Educational Publications, Department of Education, Government of Tripura.
トリプラ・ディストリクトを単独で扱った初のガゼッティア。それまでガゼッティアとしては，ベンガル地方のガゼッティアの一部に記述されるにとどまっていた。ガゼッティアとして，トリプラの現状が網羅されている。

MICHELL, J. F.
1883 *The North-east Frontier of India* (Reprinted 1973 by Vivek Publications, Delhi.)
19世紀のアッサムの諸部族に関する記述が豊富。

MILLS, J. P.
1922 *The Lhota Nagas.* London: Macmillan and Co. Ltd.
1926 *The Ao Nagas.* London: Macmillan and Co. Ltd. (Reprinted 1973 by Oxford University Press.)
1937 *The Rengma Nagas.* (Reprinted 1980 by Spectrum Publications, Gauhati).

ミルン，L.
1944『シャン民俗誌』牧野　巽／佐藤利子訳　生活社。
シャン高原のシャン族についての人類学的調査研究。アホム族についての記述がある。原著は1910年発行。

三森定男
1945 『ビルマ・シャンの自然と民族』日本評論社。
MIPUN, J.
1978 Acculturation, Communication and Development in a Mishing Village. In S.M. Dubey (ed.), *North East India: A Sociological Study*, Delhi: Concept Publishing Co., pp. 165–180.
森田勇造
1984 『秘境ナガ高地探検記』東京新聞出版局。
守屋 毅
1971 『お茶のきた道』NHK ブックス。
永積 昭
1977 『新書東洋史 東南アジアの歴史』講談社新書。
中根千枝
1955 「Tripura 州原住民に関する民族学的調査報告」『民族学研究』19 (1): 58–99。
1972 「ナガ諸族」『世界大百科事典』平凡社, pp. 53。
NAKANE, Chie
1967 *Garo and Khasi: A Comparative Study in Matrilineal Systems.* Mouton & Co.
1955〜1956年のフィールド・ワークに基づく，ガロ族，カシ族の母系社会システムの比較研究。
長野泰彦
1987a 「モンパ」『文化人類学辞典』石川栄吉，梅棹忠夫他（編） 弘文堂，pp. 784.
1987b 「ニシ」『文化人類学辞典』石川栄吉，梅棹忠夫他（編） 弘文堂，pp. 459.
NAG, M.
1964 Nagas. In LeBar *et al.* (eds.), *Ethnic Groups of Mainland Southeast Asia*, pp. 44–49.
NEOG, Maheswar
1984 *Religions of the North-East: Studies in the Formal Religions of North-Eastern India.* Munshiram Manoharlal Publishers.
アッサム地方に現存する諸宗教についてまとめている。タイ系諸族の個々についての記述がある。
NIGAM, R. C.
1971 *Language Handbook on Mother Tongues in Census Centenary. Monograph No. 10. Census of India 1971.* Office of the Registrar General, India. New Delhi: Ministry of Home Affairs.
本書は，1961年のインドの国勢調査で得られた資料をもとに，インド国内で使用されている 1,652 の母国語を取り上げ，言語グループに分類し，使用されている地域や話者人口などをリストアップしている。
落合淳隆
1970 『現代インド問題要論』敬文堂。
大林太良
1954 「アッサムの雛段耕作」『東洋文化研究所紀要』第 6 冊 pp. 99–240。
1955 「東南アジアに於ける豚飼養の文化史的地位」『東洋文化研究所紀要』第 7 冊 pp. 37–146。
大野 徹
1983 「歴史的背景」綾部恒雄・永積 昭編『もっと知りたいビルマ』（もっと知りたい東南アジア 6）弘文堂，pp. 1–39。
PAUL, A. K. and P. D. SHARMA
1971 *Mikir of Assam, Monograph Series, Part 5-B Census of India 1961 Volume 1.* New Delhi: Office of the Registrar General.
PAKRASI, K. B.
1953 A Note on the Kurs and Sub-Kurs of the Arlengs (Mikirs). *Man in India* 33(4): 307–314.

1954 The Traditional Story of Arleng (Mikir) Migration. *Man in India* 34(3): 211–219.
1955 A Study of Arleng (Mikir) Kinship Terminology. *Man in India* 35(2): 119–126.

PAKYNTEIN, E. H.
1965 *Titaguri. Village Survey Monograph No. 1 Assam, Part 6 Manipur, The Census of India, 1961. Vol. 3.* Manager of Publications.
1967 *Resubakrapara. Village Survey Monograph No. 1 Assam, Part 6 Manipur, The Census of India, 1961. Vol. 3.* Manager of Publications.
1968 *Durtlang. Village Survey Monograph No. 17 Assam, Part 6 Manipur, The Census of India, 1961. Vol. 3.* Manager of Publications.
本書は，インド政府が10年ごとに実施している国勢調査の際に付随して行なわれる地域調査の結果をまとめたモノグラフである。全体は，「村落」，「人々」，「経済」，「社会的・文化的生活」，「結論」の5つに分かれている。このモノグラフのシリーズは，伝統的な生活ではなく，現在の地域の状況や人々の暮らしの様子などに焦点をあて，地域開発を行なうための基礎資料としての側面を強くもっている。本書は，ミゾ・ヒル・ディストリクトにあるデュルトラング村に居住するルシャイ族に関するモノグラフである。

PANDAY, R.
1979 *Kasi through the Ages.* Delhi: Sundeep Prakashan.

PANDEY, S. N.
1985 *Sources of the History of Manipur.* Imphal: Manipur University.
本書は，マニプール州とその近隣の州の歴史的資料に関する全インドセミナーにおいて発表されたものを収録したセミナーの報告集である。最新の歴史資料の紹介や，歴史研究の問題点を扱った論文が掲載されているが，論文集と言うより，報告の要約集という趣きである。著者は，マニプール大学の歴史学部で主任教授をつとめている。

PARRY, N. E.
1932 *The Lakhers.* London: Macmillan and Co., Ltd.
本書は，インドの行政官であったパリーが，1924年から1928年にかけてラケール族の住むルシャイ・ヒル・ディストリクトで行政に従事したさいに調査したものをまとめた500ページにおよぶ大部の民族誌である。全体は，歴史や由来について書かれた「イントロダクトリー」，生業や村落状態について書かれた「家庭生活」，社会組織や婚姻関係について書かれた「法と習慣」，「宗教」，「言語」，「民俗」の6章に分けられ，各章とも詳細に記述されている。クランや村のリスト，ラケール族の居住する地域を示した地図が付録としてついている。

PEMBERTON, R. B.
1835 *The Eastern Frontier of India.* (Reprinted 1979 by Mittal Publications, Delhi.)
本書は，イギリス領となり，変化の途上にあった北東辺境地方（現在のアルナチャル・プラデシュ州）について，自らがイギリスの全権大使として見聞したことに基づいて書かれている。自然や民族について豊富な記述がみられるが，特に，イギリスとの関係など政治的領域に関する記述に詳しい。

ROBINSON, W.
1841 *A Descriptive Account of Assam.* (Reprinted 1975 by Sanskaran Prakashak, Delhi.)

ROY, S.
1966a *Anthropometry of the Adis.* Shillong, Assam: North East Frontier Agency Administration.
著者が，1948年以来収集したアディ族の身体計測に関する著書である。
1966b *Aspects of Padam-Minyong Culture.* North-East Frontier Agency, Shillong.
著者は，1948年以来 N.E.F.A. の文化研究所の研究員を4年間勤めた。パダム，ミニョンはアディ（アボール）の支族である。

SACHCHIDANANDA
1985 Swidden Cultivation among the Wancho of Arunachal Pradesh. In Yogesh Atal (ed.) *Swidden Cultivation in Asia* 3: 1–73. Bangkok: U.N.E.S.C.O. Regional Office for Education in Asia and the Pacfic.

実地調査に基づいたワンチョー族の焼畑についての記録。

SAIKA, A. K.

1970 *Khara. Village Survey Monograph No. 3 Assam, Part 6 Manipur, The Census of India, 1961. Vol. 3.* Manager of Publications.

SAIKIA, Padma Dhar

1964 *Studies in Dafla: Social and Religious Life.* Department of Tribal Culture and Folklore Research, University of Gauhati.

著者は，1956年テズプールから37キロメートル離れたチャンダールとキミンで6か月にわたって，ダフラ社会の調査を行なっている。本書では，ダフラ族の起源，奴隷制，儀礼的な交友，誓いと試練，通過儀礼，呪術と呪術医について記述されている。

SAIKIA, Paran Chandra

1976 *The Dibongiyas: Social and Religious Life of a Priestly Community.* B. R. Publishing Corporation.

チュティヤ族の一支族，デオリ・チュティヤ族を構成する僧侶階層，ディボンギアの社会構造，宗教，儀礼についての研究。調査地は，アッサム・ディストリクトのラキンプール。

SCHWARTZBERG, J. E. (ed.)

1978 *A Historical Atlas of South Aria.* Chicago and London: The University of Chicago Press.

SEN, D. K.

1971 *Annexure to the Tribal Map of India.* Calcutta.

SEN, Sipra

1986 *Arunachal Pradesh and the Tribes: Select Bibliography.* Delhi: Gian Publishing House.

近年に編まれたアルチャナル・プラデシュに関する膨大な量の文献名を並べている。文献の内容に関するコメントはない。インド発行の多くの雑誌論文，記事を含む。

1987 *Tribes of Nagaland.* Delhi: Mittal Publications.

近年に編まれたナガランドに関する膨大な量の文献名を並べている。文献の内容に関するコメントはない。インド発行の多くの雑誌論文，記事を含む。

SHAFER, R.

1953 Classification of the Nothern Naga Languages. *Journal of the Bihar Research Society* Vol. 39, Part 3.

SHAKESPERE, J.

1912 *The Lushei Kuki Clans.* London: Macmillan and Co. Ltd. (Reprinted 1983 by Cultural Publishing House, Delhi).

本書は2部に分かれている。第1部では，ルシャイ族をとりあげ，その人種的特徴，法と慣習，宗教，伝説，神話，言語などについて書かれた詳細な民族誌である。第2部では，ルシャイ族以外の他のクキ・チン諸族についてとりあげ，ラケール族，タドー族などの部族，また古クキグループに分類される民族についても，1ページずつ記述されている。多くの部族がまんべんなくとりあげられており，クキ・チン諸族全体を概観するものとなっている。

SHAW, William

1929 *The Thadou Kukis.* (Reprinted 1983 by Cultural Publishing House, Delhi.)

アッサムの行政官であった著者は，マニプール州の北西地域のサブ・ディビジョンの行政官として7年間，現地に居住し，タドー族やナガ族と親密につきあった。本書は，概説，起源，伝説，儀礼と信仰，村落と職業，言語などの全般にわたって書かれたタドー族に関する民族誌であり，ミッションの影響を受ける前のタドー族の姿を描き出すことに重点をおいている。

SHUKLA, Brahma Kumar

1965 *The Daflas of the Subansiri Region.* Shillong: North-East Fontier Agency.

著者は，スバンシリ・フロント・ディビジョンの地域研究スタッフである。シリーズ *The People of N.E.F.A.* の中の一冊。ダフラ族の生活全般について，写真と画で紹介している。

SIMOOMS, F. J. & E. S. SIMOONS
1968 *A Ceremonial Ox of India.* Madison: The University of Wisconsin Press.

SINGH, Birendra
1965a *Ithing. Village Survey Monograph. Manipur, Part 4 No. 7, The Census of India. 1961, Vol. 22.* Superintendent of Census Operations.
本書は，インド政府のセンサス・モノグラフシリーズの１つで，マニプール地域のロタ湖にうかぶ島にあるイティング村のメイテイ族に関するモノグラフである。
1965b *Liwachangning. Village Survey Monograph. Manipur, Part 4 No. 5, The Census of India. 1961. Vol. 22.* Superintendent of Census Operations.
本書は，インド政府のセンサス・モノグラフシリーズの１つで，マニプール州のリワチャンニン村に居住するモヨン族についてのモノグラフである。
1965c *Pherzawl. Village Survey Monograph. Manipur, Part 4 No. 5, The Census of India. 1961, Vol. 22.* Superintendent of Census Operations.
本書は，インド政府のセンサス・モノグラフシリーズの１つで，インパールの南西部にあるフェルザウル村に居住するマー族についてのモノグラフである。
1966 *Thanjing Chiru. Village Survey Monograph. Manipur, Part 4 No. 21, The Census of India. 1961. Vol. 22.* Superintendent of Census Operations.
本書は，インド政府のセンサス・モノグラフシリーズの１つで，インパール西方のタングジング・チル村に居住するチル族についてのモノグラフである。
1968a *Keisamthong (Kabui Village). Village Survey Monograph. Manipur, Part 6 No. 2. The Census of India. 1961. Vol. 22.* Superintendent of Census Operations, Manipur.
本書は，インド政府のセンサス・モノグラフシリーズの１つである。
1968b *Minuthong (Kabui Village). Village Survey Monograph. Manipur, Part 6 No. 7, The Census of India. 1961. Vol. 22.* Superintendent of Census Operations, Manipur.
本書は，インド政府のセンサス・モノグラフシリーズの１つである。
1971 *Longa Koireng. Village Survey Monograph. Manipur, Part 6 No. 22, The Census of India. 1961. Vol. 22.* Superintendent of Census Operations, Manipur.
本書は，インド政府のセンサス・モノグラフシリーズの１つである。
1972 *Khousabung. Village Survey Monograph. Manipur, Part 4 No. 3, The Census of India. 1961. Vol. 22.* Superintendent of Census Operations.
本書は，インド政府のセンサス・モノグラフシリーズの１つで，インパールの南西部にあるコウサブング村に居住するギャンテ族についてのモノグラフである。

SINGH, C.
1981 *Political Evolulion of Nagaland.* Lancers Publishers.

SINGH, Kanwar Randip
1987 *The Nagas of Nagaland: Desperadoes and Heroes of Peace.* New Delhi: Deep & Deep Publications.

SINGH, Prakash
1981 *Nagaland.* New Delhi: National Book Trust.

SMITH, W. C.
1925 *The Ao Naga Tribes of Assam.* Delhi: Gian Publications.

SOPPITT, C. A.
1885 *A Short Account of the Kacha Naga (Empeo Tribe) in the North Cachar Hills.* (Reprinted 1969 by Oxford University Press, Bombay.)

SPATE, O. H. K. & A. T. A. LEARMONTH
1972 The Eastern Borderlands: Assam and N.E.F.A. In *India and Pakistan: A General and Regional Geography.* 3rd Edition, London: Methuen & Co., Ltd., pp. 600–610.

SREEDHAR, M. V.
1974 *Naga Pidgin: A Social Linguistic Study of Inter-Lingual Communication Pattern in Nagaland.* Occasional Monograph Series-8, Mysore: Central Institute of Indian Languages.
ナガ諸語の言語の研究史が辿られているほか，ピジン・ナガ語の文法の解説がある。

SRIVASTAVA, L. R. N.
1962 *The Gallongs.* Shillong: Research Department, Adviser's Secretariat.
STACK, E.
1908 *The Mikirs.* London: David Nutt.
ミキール族に関する民族誌。民話と言語を含む。
STEEN, C. R.
1948 Material Culture of the Langsing Nagas, Northern Burma. *Southwestern Journal of Anthropology.* Vol. 4, pp. 263–298.
田村克己
1983 「民族と言語」綾部恒雄・永積 昭編『もっと知りたいビルマ』(もっと知りたい東南アジア6) 弘文堂, pp. 71–97。
1987a「クキ」『文化人類学事典』石川栄吉, 梅棹忠夫他(編) 弘文堂, pp. 221。
1987b「チン」『文化人類学事典』石川栄吉, 梅棹忠夫他(編) 弘文堂, pp. 487–488。
1987c「ラケール」『文化人類学事典』石川栄吉, 梅棹忠夫他(編) 弘文堂, pp. 808。
1987d「ルシャイ」『文化人類学事典』石川栄吉, 梅棹忠夫他(編) 弘文堂, pp. 826–827。
1987e「ミゾ」『文化人類学事典』石川栄吉, 梅棹忠夫他(編)弘文堂, pp. 743。
1987f「メイテイ」『文化人類学事典』石川栄吉, 梅棹忠夫他(編) 弘文堂, pp. 768。
THAKUR, G. C. Sharma
1982 *The Tai Phakes of Assam.* Delhi: B. R. Publishing Corporation.
タイ系諸族のうち, 比較的小さな部族であるファキャールについての村落調査研究。この書の他には, まとまった文献はないようである。
東亜研究所(編)
1942 『ビルマ地名要覧』東亜研究所。
VASU, Nagendra-Nath
1983 *The Social History of Kamarupa.* Vol. 1, 2, 3. (Reprinted 1986 by Northern Book Center, New Delhi.)
WADDELL, L. A.
1901 *The Tribes of The Brahmaputra Valley: A Contribution on their Physical Types and Affinities.* (Reprinted 1975 by Sonskaran Prakashak.)
著者は医師である。1880年から1902年にかけてダージリン, カルカッタで医療, 医学教育に従事する。そのかたわら, チベット, アッサムの民族学的研究を行なう。本書は, アルファベット順に各部族が並べられた百科辞書風である。ブラマプトラ河谷周辺に住む諸部族に関する簡潔な概説書である。身体計測データも含み, 形質観察による記述が多い。各部族ごとの記述は少ないが, ほかの文献にのらない少数部族も記述されている。
山田隆治
1959 「中・東部インド未開諸族における死後の生活観」『民族学研究』22巻3号～4号。
山下晋司
1987 「ナガ」『文化人類学事典』石川栄吉, 梅棹忠夫他 (編) 弘文堂, pp. 546。
山本達郎(編)
1960 『インド史』山川出版社。
インドの通史であるが, 本書にはアッサムに関する記述個所も多く, アッサム史をインド史全体の流れの中で理解する上で好著である。
在インド日本国大使館(編)
1982 『インド』(世界各国便覧叢書 [アジア編]) 日本国際問題研究所。